

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

JSiSE

発行日 2004年 5月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
TEL 06-4961-6507 FAX 06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail: secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.129

JSiSE2004 第 29 回全国大会 企画セッション・一般講演

発表申込締切は 6月30日です

研究発表募集

第 29 回全国大会において、企画セッション・一般講演の研究発表募集をしています。
企画セッションは、A～Fの6テーマに分かれています。一般講演においては、幅広い分野
別から発表申込を募っています。

== 企画セッションテーマ ==

- A：組織内教育における e-Learning の新しい展開
- B：e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信
- C：学習モデルの再考と知的学習支援システム
- D：インターネット新技術による学習環境の展開
- E：高等教育における ICT 利用システム 遠隔教育，生涯教育を含む
- F：情報科教育法の実践と評価

* 全国大会ホームページで発表申込受付中！
<http://jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp/>

締め切り：6月30日（金）

大会事務局：〒761-0396 香川県高松市林町 2217-20
香川大学工学部信頼性情報システム工学科 山崎研究室気付
教育システム情報学会第 29 回全国大会事務局
e-mail info@jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp

大会日程

8月20日(金) [第1日15:00より 受付14:00開始]

14:00～	受付				
15:00～18:00	ワークショップA eラーニング技術 特別委員会	ワークショップB CSCILと支援技 術特別委員会	ワークショップC 情報教育委員会	ワークショップD e-Pedagogy 創生 委員会	ワークショップE
18:00～	ウエルカム・パーティ				

8月21日(土) [第2日]

9:00～	受付						
9:30～11:30	企画セッションA 「組織内教育にお ける e-Learning の新しい展開」	企画セッションB 「e-Learning 向け 動的デジタル教 材の制作と配信」	企画セッションC 「学習モデルの 再考と知的学習 支援システム」	A1:一般講演	A2:一般講演	A3:一般講演	企業 展示 会
	オーガナイザ 仲林 清 (NTTレゾナント) 松居 辰則 (早稲田大学)	オーガナイザ 磯本征雄 (岐阜聖徳大学) 野崎浩成 (愛知教育大学)	オーガナイザ 小西達裕 (静岡大学) 伊藤紘二 (東京理科大学)				
11:40～12:30	理事会						
12:30～13:00	総会						
13:00～14:00	特別講演「教育の構造改革」(仮題) 講師:文部科学省高等教育局大学振興課 課長 小松 親次郎						
14:15～16:05	パネル討論会 「高等教育とe-Learning」 モデレータ:電気通信大学大学院教授 岡本敏雄(本学会長)						
16:15～18:15	B1:一般講演	B2:一般講演	B3:一般講演	B4:一般講演	B5:一般講演	B6:一般講演	ポスター/デ モセッション
18:30～20:30	懇親会						

8月22日(日) [第3日]

9:00～	受付						
9:30～11:30	企画セッションD 「インターネット 新技術による学 習環境の展開」	企画セッションE 「高等教育にお ける ICT 利用シ ステム」 遠隔 教育,生涯教育 を含む	企画セッションF 「情報科教育法 の実践と評価」	C1:一般講演	C2:一般講演	C3:一般講演	ポスター/デモ セッション
	オーガナイザ 米澤宣義 (工学院大学) 佐々木 整 (拓殖大学)	オーガナイザ 黒瀬能幸 (近畿大学) 渡辺成良 (電気通信大学)	オーガナイザ 松永公廣 (摂南大学) 西野和典 (九州工業大学)				
11:30～13:00	昼食						
13:00～15:00	D1:一般講演	D2:一般講演	D3:一般講演	D4:一般講演	D5:一般講演	D6:一般講演	ポスター/デモ セッション
15:10～17:00	パネル討論会 教科「情報」- 初等教育から高等教育における先進的な実践事例に学ぶ - モデレータ:富山大学助教授 黒田 卓						

大会参加費 参加費等 7,000円 (事前申込の場合は、6,000円)

(注)参加費等には、参加費 1,000円、論文集 6,000円(事前申込は、5,000円)を含みます。

論文掲載費 1,000円 (論文1編につき。企画セッション、一般講演、ポスター・デモセッションでの発表を対象とします。)

懇親会費 6,000円 (事前申込み 5,000円)

発表・参加申込

発表申込締切 2004年6月30日(金)

発表原稿提出締切 2004年7月9日(金)

事前参加申込締切 2004年8月6日(金)

大会事務局 〒761-0396 香川県高松市林町 2217-20

香川大学工学部信頼性情報システム工学科 山崎研究室 気付

教育システム情報学会第29回全国大会事務局 e-mail info@jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp

(ご注意) 大会事務局の住所は、大会会場の住所とは異なります。論文原稿の送付先はこちらの住所です。

全国大会ホームページ <http://jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp/>

JSiSE2004 第 29 回全国大会



広告・展示を募集中!!

JSiSE 全国大会では、大会期間中に教育システムの展示デモ、書店展示販売、論文集への広告掲載を募集しております。会員の方で、お知り合いの企業の方にご紹介ください。

記

1. 費用

展示デモ	7 万円（希望により論文集に広告掲載）
書店展示販売	5 万円（希望により論文集に広告掲載）
広告 B-5 判	1 頁 5 万円
	半頁 3 万円

2. 概要

1) 広告

サイズ：B5（余白を上下左右に 17mm）
モノトーン
入稿形式：完全版下原稿または、電子ファイル

2) 企業展示

机 2 台程度用意
100 ボルト電源（1 口）
情報コンセント（インターネット接続可）

3) 書籍展示販売

机 2 台程度用意
100 ボルト電源
情報コンセント（インターネット接続可）



ホームページ <http://jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp/> でもご覧いただけます。

大会事務局 〒761-0396 香川県高松市林町 2217-20
香川大学工学部信頼性情報システム工学科 山崎研究室気付
教育システム情報学会第 29 回全国大会事務局
電話：087-864-2220 FAX:087-840-2262
e-mail： info@jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp

第5回 eラーニング技術特別委員会 シンポジウム開催の報告

eラーニング技術特別委員会
委員長：小松 秀圀

去る4月26日(月)に産業能率大学の新しい代官山キャンパスにて5回目のeラーニング技術特別委員会のシンポジウムを開催致しました。

産業能率大学がトレンドな代官山に新しいキャンパスを開校したという話題性もあったせいか、126名の参加者を得て賑やかなシンポジウムとなりました。

シンポジウムテーマのテーマは「**データで読み解く eラーニング最新動向**」でeラーニングはどのような現状であるのか、これからどうなるのかを高等教育、企業内教育を視点に入れての講演およびシンポジウムを行ないました。

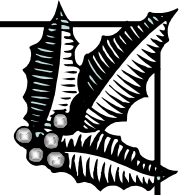
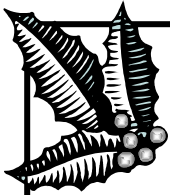
PART1はメディア教育開発センター教授 吉田文先生による講演で「**高等教育における eラーニング**」～アメリカの実態と日本の課題～というタイトルで先進国のeラーニングの発展状況から日本の高等教育の挑戦すべき課題などをお話し頂きました。

PART2のシンポジウムでは「**データで読み解く eラーニング最新動向**」～ベンダ、ユーザ、品質の調査結果から～というタイトルでモデレータを岩手県立大学 鈴木克明教授パネリストにNTT レゾナント株式会社、Eラーニング部 コンサルティング部門 担当部長木山 稔氏、先進学習基盤協議会、事務局長 伊藤 健二氏、産業能率大学、産業能率大学総合研究所平田謙次氏のeラーニングの専門家を迎えてeラーニングの現状と今後の発展方策などについて活発な議論がありました。



参加者からeラーニングの品質の研究などを聞いていると物作りの品質感覚に比較して、品質に関する感性があまりにも遅れているという指摘もあつたりして、フランクで考えさせられる場面の多い、賑やかな中にも実りの多いシンポジウムになりました。会場には坂元昂先生もお見えになり多に花を添えて頂きました。このシンポジウムはeラーニング関係者にも参加をして頂き、今回のシンポジウムで4名の新規入会申込があつたのもうれしい成果でした。

今年10月の第6回シンポジウムの開催を楽しみに18:00解散となりました。



情報教育シンポジウム

高校普通教科「情報」への期待と課題

主催：教育システム情報学会，情報処理学会

1. 開催の趣旨

新教育課程の実施に伴い，平成 15 年度から高等学校で教科「情報」の授業が開始され，21 世紀の高度情報通信ネットワーク社会に対応した情報教育が，本格的に推進されている。情報教育の充実，世界最先端の IT 国家を目指す e-Japan 戦略を推進する上での重要な施策でもあり，産官学が共同して，今後さらに情報教育を進展させていく必要がある。

教科「情報」実施後 1 年が経過したこの時期に，情報教育に携わる先生方，関連する各界の方々にお集まりいただき，会場の参加者とともに，現状を振り返り，今後の情報教育の在り方を展望する。

2. 日 時

平成 16 年 7 月 31 日（土） 10:00～17:30

3. 場 所

東京大学（本郷キャンパス）山上会館

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1

<http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/campus/map/index.html>

4. プログラム

9:30～ 受付

10:00～10:30

開催挨拶 情報処理学会会長 益田隆司，教育システム情報学会会長 岡本敏雄

10:30～11:15

基調講演 辻村哲夫（国立美術館理事長，元文部省初等中等教育局長）

11:15～12:00

特別講演 1 長尾 真（前京都大学総長）

12:00～13:00 昼休み

次ページへつづく

13:00～13:40

特別講演 2 岩本宗治(大阪電気通信大学高等学校校長,元文部省初等中等教育局主任視学官)

13:40～14:20

教科「情報」の実践の課題 永井克昇(文部科学省 情報科教科調査官)

14:20～14:50

教科「情報」の実践報告 武沢 護(早稲田大学高等学院)

14:50～15:20

教科「情報」の評価観点と規準 西野和典(九州工業大学)

15:20～15:30 休憩

15:30～17:30

パネル討論 “教科「情報」発展のための条件と課題”

司会 岡本敏雄(電気通信大学大学院)

パネリスト

箕 捷彦(早稲田大学), 西之園晴夫(佛教大学, 学習開発研究所),

天良和男(東京都立駒場高等学校), 石田厚子(日立製作所)

17:30 終了

17:50～20:00 懇親会

5. 参加費 事前申込み:1,000円,当日:1,500円

(懇親会に参加される方は,別途徴収いたします。)

6. 後援(予定):文部科学省,日本教育工学会,電子情報通信学会,日本科学教育学会

協賛(予定):読売新聞,日本教育新聞,教育家庭新聞,教育新聞,先進学習基盤協議会,
科学技術教育協会,コンピュータ教育開発センター,日本教育工学振興会

7. 申込み・問い合わせ先

九州工業大学 西野和典

電話:0948-29-7813

E-mail:jks@hus.osaka-u.ac.jp

*申込みは,お名前,所属,連絡先を上記E-mailアドレスまでお送り下さい。(先着130名まで)



2004 年度第 2 回研究会のおしらせ

テーマ：『e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信』

担当：研究会委員会
磯本征雄 / 植野真臣 / 野崎造成

第 2 回研究会を下記の通り開催致しますので、奮ってご参加の程、宜しくお願い申し上げます。

開催日：2004 年 7 月 24 日（土）
開催場所：長岡技術科学大学
連絡先：野崎造成（愛知教育大学教育学部）
〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
愛知教育大学教育学部
Tel.0566-26-2609 Fax.0566-26-2510
E-mail : nozaki@aeu.ac.jp

なお、当日のプログラム等、詳細は、以下の URL をご参照下さい。
<http://mickey.ics.aichi-edu.ac.jp/multi2004/>

プログラム

発表タイトル等の一覧（申込受付順）

- (1) 「映像演出理論を適応したデジタルコミックのアニメ化への一検討」
高田伸彦（金沢学院大学）
- (2) 「アイマークレコーダを用いたコンテンツ評価」
安藤雅洋（長岡技術科学大学）
- (3) 「見て、聞いて、触って操作する教材開発」
伊藤 敏（岐阜聖徳学園大学）、井上祥史（岩手大学）
- (4) 「ガンマ分布における e ラーニング所要時間データのオンライン解析システムと
コンテンツ評価」
植野真臣（長岡技術科学大学）
- (5) 「暗号化学習教材の開発」
太田昇、野崎造成、江島徹郎、梅田恭子、平田賢一（愛知教育大学）
- (6) 「授業の多元的記録・分析・構成方法についての基礎的研究 - 大学の授業改善の試み -」
平山勉（名城大学）、後藤明史（名古屋大学）、沢辺良勝（ソニーブロードバンドソリューション株式会社）

教育システム情報学会(JSiSE)主催 シンポジウム

「情報化時代に対応した大学入試と能力評価」

2004 年度第 3 回研究会

発表募集のごあんない

テーマ：『学習モデルの再考と知的学習支援システム』

担当：研究会委員会
小西達裕 / 伊藤紘二

本年度第 3 回研究会といたしまして、「学習モデルの再考と知的学習支援システム」をテーマに研究会を開催いたします。多くの方々にご発表・ご参加いただけますようご案内申し上げます。

本学会ではこれまでも、学習をコミュニケーションと捉える立場から、言語や知識の取り扱いを取り入れた学習・教育支援システムの研究をテーマとする研究会を開催して参りました。その中で、学習というものをどう捉え、それをどのように教育システムのデザインに結び付けてゆくかという問題意識からの研究が、近年ますます活発になりつつあると感じております。そこで今回は、「学習モデルの再考と知的学習支援システム」と題し、この分野に関心をお持ちの方々に議論の場をご提供したいと考えております。具体的には、学習科学とその応用、学習におけるコミュニケーションモデル、マルチモーダルインタフェース、先端的知識処理・言語処理とその応用、e-learning と知的処理、などのテーマを想定しておりますが、むしろこれらの枠にとらわれず、さまざまな分野の方々にお集まりいただけることを願っております。

開催日：2004 年 9 月 17 日（金）

開催場所：静岡大学情報学部（静岡県浜松市 城北 3 - 5 - 1）

発表申込締切：2004 年 7 月 16 日（金）

原稿提出締切：2004 年 8 月 20 日（金）（ページ数は、4～8 の偶数とします）

発表申込方法：

以下を電子メールで幹事の小西（静岡大学：konishi@cs.inf.shizuoka.ac.jp）までお送りください。

（ 1 ）発表タイトル、（ 2 ）著者名・所属（登壇者に ）

（ 3 ）発表概要（ 5 0 文字程度）（ 4 ）連絡先住所、氏名、電話番号、メールアドレス

お問い合わせ先

研究会幹事 小西達裕

432-8011 静岡県浜松市城北 3 - 5 - 1

静岡大学情報学部 情報科学科

Tel. 053-478-1454 FAX 053-478-1499（共用）

E-mail: konishi@cs.inf.shizuoka.ac.jp



2005年7月発行号掲載 特集論文募集

締切り：2004年11月1日

テーマ：ユビキタス/モバイル学習環境

主旨

近年、携帯電話やPDAなどの携帯情報端末の小型化や普及、さらには、学校や駅、家庭などでの無線LANアクセスなどの整備が進み、「いつでもどこでも」学習できる環境が整いつつある。本論文特集では、このようなユビキタス/モバイル学習環境についての理論的・実践的研究を広く募集します。例えば、携帯電話やPDAを用いた新しい学習環境のご提案やユーザモデル、さらには評価方法などの理論的研究はもちろん、GPSやRFIDタグや各種センサー等を用いて、学校・博物館・図書館等での学習・教育を支援するような先駆的な実践研究も歓迎いたします。是非、ユビキタス/モバイル技術を用いた学習環境として、幅広い分野から、将来を見据えた上での積極的なご投稿をお願いいたします。

本論文特集は、ユビキタス/モバイル学習環境に関連する様々な理論的・実践的研究を広く募集致します。具体的なキーワードとしては次のようなものを挙げることはできますが、これらに限りません。

携帯電話やPDAなどのモバイル機器を用いた学習環境のデザイン・位置情報などの周辺情報を利用した学習環境や学習者適応モデル・無線LAN、Bluetooth、赤外線通信等を利用したグループ学習・協調学習環境・RFIDタグ、GPS、センサーネットワークなどのデバイスを利用した学習環境・ユビキタス/モバイル学習環境での学習理論・学習者モデル・評価方法・ユビキタス/モバイル学習環境構築のためのシステムアーキテクチャやその運用方法・博物館、美術館、学校などでの研究実践事例

論文種別

原著論文、ショートノート、実践論文、実践速報を募集します。なお、査読の結果により、異なる種別での採録になることがあります。また、編集委員会の判断により、特集ではなく一般投稿論文としての採録とさせていただきます。

投稿要領

一般の論文投稿規程に準じます。

投稿に際しては、原稿の1ページ目および封筒に「ユビキタス/モバイル学習環境」と朱書きしてください。

スケジュール

投稿締切：2004年11月1日

掲載予定：2005年7月1日発行の学会誌

問い合わせ・原稿送付先

教育システム情報学会事務局

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

Tel : 06-4961-6507 Fax : 06-4961-6508

園田学園女子大学 情報教育センター内

E mail : secretariat@jsise.org

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

新着情報 4 件

KSCE 2004: The IASTED International Conference on KNOWLEDGE SHARING AND COLLABORATIVE ENGINEERING
開催日程: 2004 年 11 月 22-24 日
主催: IASTED
開催地: St. Thomas, US Virgin Islands
論文応募締切: 2004 年 7 月 1 日
URL: <http://www.iasted.org/conferences/2004/vi/ksce.htm>

ICI-CATE2004: The International Conference on Informatics: Computers And Advanced Technology In Education
開催日程: 2004 年 9 月 1-4 日
開催地: CESME, IZMIR, TURKEY
論文応募締切: 2004 年 7 月 11 日
URL: <http://www.ikss.org/ici-cate-2004/>
Email: ici-2004@ijisip.org

国際会議案内文責 松田 憲幸 (和歌山大学)
E-mail: matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp

WBE 2005: The 4th IASTED International Conference on WEB-BASED EDUCATION

開催日程: 2005 年 2 月 21-23 日

主催: IASTED

開催地: Grindelwald, Switzerland

論文応募締切: 2004 年 10 月 1 日

URL:

<http://www.iasted.org/conferences/2004/vi/ksce.htm>

SITE 2005: Society for Information Technology & Teacher Education

開催日程: 2005 年 3 月 1-5 日

主催: AACE

開催地: Phoenix, Arizona, USA

論文応募締切: 2004 年 10 月 18 日

URL: <http://site.aace.org/conf/>

再掲載情報 1 件

ISWC 2004: International Semantic Web Conference

開催日程: 2004 年 11 月 7-11 日

主催: 人工知能学会, The Semantic Web Science Association

開催地: 広島プリンスホテル

論文応募締切: 2004 年 4 月 13 日

URL: <http://iswc2004.semanticweb.org/>

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0402100	福村好美	長岡技術科学大学	正会員
JSiSE-A0402101	藤川 猛	芦屋大学	正会員
JSiSE-A0402102	前佛 栄	NTT アドバンステクノロジー(株)	正会員
JSiSE-A0402103	横尾昭男	NTT アドバンステクノロジー(株)	正会員
JSiSE-A0402104	平 治彦	株式会社ウェブクラス	正会員
JSiSE-A0402105	斎藤 一	北海道情報大学	正会員
JSiSE-A0402106	甲 圭太	長岡技術科学大学	正会員
JSiSE-A0402107	森下博正	静岡県立浜松城北工業高校	正会員
JSiSE-A0402108	清水邦雄	東京都立農産高等学校	正会員
JSiSE-A0402109	谷口真嗣	(学)常葉学園常葉学園短期大学	正会員
JSiSE-A0402110	石田 隆	東北大学	準会員
JSiSE-A0402111	石井一成	東京海洋大学	正会員
JSiSE-A0402112	山口博道	ブラックボードジャパン株式会社	正会員
JSiSE-A0402113	加藤隆広	愛知みずほ大学	正会員
JSiSE-A0402114	矢野口聡	松本大学松商短期大学部	正会員
JSiSE-A0402115	高志 修	香川大学	準会員
JSiSE-A0402116	河野正博	香川大学	準会員
JSiSE-A0402117	衣笠 裕	香川大学	準会員
JSiSE-A0402118	守屋 純	香川大学	準会員
JSiSE-A0402119	山崎 聖	関東職業能力開発大学校	正会員
JSiSE-A0402120	浅野 博	関東職業能力開発大学校	正会員
JSiSE-A0402121	中平勝子	長岡技術科学大学	正会員
JSiSE-A0402122	上田千恵	旭川荘厚生専門学院	正会員
JSiSE-A0402123	役 誠雄	富士通株式会社	正会員
JSiSE-A0402124	門田暁人	奈良先端科学技術大学院大学	正会員
JSiSE-A0402125	河合勝彦	桃山学院大学	正会員
JSiSE-A0402126	長野勝利	神戸市看護大学	正会員
JSiSE-A0402127	袖岡孝好	大阪府立産業技術総合研究所	正会員
JSiSE-A0402128	中池竜一	京都大学	正会員
JSiSE-A0402129	阪 美里	愛知みずほ大学	正会員
JSiSE-A0402130	多賀譲治	玉川学園	正会員
JSiSE-A0402131	盧 颯	香川大学工学研究科	準会員
JSiSE-A0402132	徳村朝昭	(財)日本国際協力センター沖縄支店	準会員
JSiSE-A0402133	高橋朋子	園田学園女子大学	正会員
JSiSE-A0402134	大久保暁正	園田学園女子大学	正会員
JSiSE-A0402135	森田直樹	東京工業大学大学院	準会員
JSiSE-A0402136	山田政寛	東京工業大学大学院	準会員
JSiSE-A0402137	松河秀哉	大阪大学	正会員
JSiSE-A0402138	三上和敬	三菱電機(株)	正会員
JSiSE-A0402139	山本朋弘	人吉市立東間小学校	正会員
JSiSE-A0402140	中邨良樹	青山学院大学	正会員
JSiSE-A0402141	藤本竜之介	熊本県立大学	正会員
JSiSE-A0402142	中野由章	千里金蘭大学	正会員
JSiSE-A0402143	橋本 諭		準会員
JSiSE-A0402144	山下裕行	長岡技術科学大学	正会員
JSiSE-A0402145	根本淳子	岩手県立大学	正会員
JSiSE-A0402146	佐々木由香	三重県立看護大学	準会員
JSiSE-A0402147	吉田祐治	芦屋大学	準会員
JSiSE-A0402148	津村 宏	NTT(株)	正会員

2004年度新入会員（2004年4月2日～2004年5月25日）

教員公募

電気通信大学

1. 募集人員 大学院情報システム学研究科情報システム設計学専攻知識処理システム学講座
助教授 1 名
2. 専門分野 人工知能・知識処理（特に準記号処理系）、CSCL/W（グループウェアなど）、教育
情報システム（先進 e-Learning システム、知的 Web システムなど）のいずれか。
3. 応募資格 40 歳前半までの博士の学位を有する方
4. 着任時期 平成 17 年 4 月 1 日（金）
5. 提出書類
 - (1) 履歴書（写真添付）
 - (2) 研究業績リスト（著書，査読付論文，国際会議，解説，学会・研究会発表，その他（特
許，報告書等）に区分し，共著者名は全て御記入ください）
 - (3) 主要論文別刷り（コピー可）5 編以内
 - (4) 今までの研究概要と今後の研究活動の抱負（A4，3 枚以内）
 - (5) 業績等の問合せ先（2 名）
7. 応募締切 平成 16 年 9 月 6 日（月）必着
8. 送付先
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1
電気通信大学 大学院情報システム学研究科
情報システム設計学専攻 専攻主任 田野俊一宛
「知識処理システム学講座助教授募集書類」と朱書し，書留で送付願います。
9. 照会先
知識処理システム学講座
教授 岡本敏雄
Tel. 0424-43-5620，Fax.0424-89-6070
E-mail：okamoto@ai.is.uec.ac.jp

2003 年度第 6 回研究会の報告

テーマ：情報教育における評価と教員養成及び一般

担当：研究会委員会
部会長／松永 公廣
会場担当／斐品 正照

本年度の情報教育研究部会担当の研究会は「情報教育における評価と教員養成及び一般」をテーマに、去る 2004 年 3 月 13 日(土)に東京国際大学(埼玉県川越市)で開催しました。集まった論文数は 16 件と、盛大な研究会となりました。発表者を含めた参加者は 45 名でした。発表者ならびに参加者の労に心より感謝いたします。研究発表は、発表時間 18 分、質疑応答 5 分、交代 2 分の計 25 分を用意しました。午前の第 1 セッション、お昼休み後の第 2 セッション、休憩を挟んで第 3 セッションを行い、合計 16 件の発表を、朝 9 時から夕方 17 時過ぎまで行いました。

発表の内容は、情報科教育法に関する実践報告、情報システム学・経営情報学・看護学における情報教育に関する実践報告、各種インターネット技術を応用したシステムや実践報告、協調学習支援システムや評価における心理実験に関するものなどがありました。発表された方々には研究会における質疑応答や議論を踏まえて、原稿を加筆・修正していただき、本学会の論文(原著・実践論文など)に投稿されることを期待します。これにより質の高い研究成果が公表・蓄積されて、情報教育に関する議論が更に盛り上がればと思っています。今回、発表された研究テーマと発表者を以下に示します。

なお、2004 年度の研究会は、「情報科教育法の実践と評価」をテーマに、2005 年 3 月 12 日(土曜日)に摂南大学(寝屋川市)で開催することを決定しました。最後に、発表または参加された方々に心より感謝の意を表します。

.....

- ・開催日：2004 年 3 月 13 日
- ・場 所：東京国際大学

1. 情報システムを学ぶ学生にインストラクショナル・デザインを意識させる演習の試み 斐品正照(東京国際大学)、岡田口ベルト(宮城大学)

情報システムを学ぶときには、基本的な技術を習得することはもちろんのこと、学生がその適用分野を意識できるようにするには少し工夫が必要である。Web Based Training や Web Based Education などの e-Learning と呼ばれているような情報ネットワーク技術を利用した教育システムをテーマとすることも、比較的容易に情報システムの適用をイメージできる方法の一つと、筆者らは考える。しかし、このようなシステムを設計・開発するときには、教職課程で主に扱われているようなインストラクショナル・デザインについての知識も必要になる。本論文では、情報システムを学ぶ学生にインストラクショナル・デザインを意識させるための演習を筆者らが試みたので、その概要と結果を述べる。

2. ビジネスゲームにおける学習者の意思決定状況の測定の試行 木村彰秀, 松永公廣(摂南大学)

問題解決能力の教育には、実際に体験してみることが効果的であるが、費用・時間・安全性の面から実現は容易ではない。そこで実際の対象をコンピュータ上でモデル化した仮想の世界で体験するといった擬似体験を利用する。これまで、ビジネスゲームはいろいろな種類のものが開発されているが、学習への効果的な活用方法、評価、指導方法の確立が課題となっている。そこで効果的な活用方法や指導方法の確立のために、まず、ビジネスゲームにおいて学習者がどのように考え、意思決定をおこなったのかを調査する。その調査方法と結果について述べる。

3. 情報科教育法における問題解決技法の演習実験 河村一樹, 加藤泰弘, 斐品正照(東京国際大学)

教職課程の科目である情報科教育法において、問題解決技法に関する授業をどのように扱えばよいかについての授業モデルを設計し演習実験を行った。具体的には、情報 B の内容(1)「問題解決とコンピュータの活用」に焦点をあて、情報科教育法の受講者全員を対象に、問題解決技法の一つである KJ 法を、手作業とコンピュータによる作業(超発想法という市販ソフト)で実施した。その結果、本授業モデルが有効であるということが明らかになった。

4. 現職教員による模擬授業評価を取り入れた情報科教育法の実践

西野和典(大阪電気通信大学),
関本正則(大阪府立生野高等学校),
高橋参吉(大阪府立工業高等専門学校),
大倉孝昭(大谷女子大学)

高等学校教科「情報」の教員養成が多くの大学で開始されている。情報科教育法では、教育実習への準備段階として模擬授業を実施することが多い。しかし、「情報」の授業は開始されたばかりであり、情報科教育法の担当教員の多くが教科「情報」の授業に参加する機会はなく、模擬授業に対して適切な評価を行なうことが難しい。そこで、著者らで開発した非同期型遠隔評価システムを利用して、教科「情報」を担当している高校教員に模擬授業を評価してもらい、受講者がその評価に基づいて教材を改善した。本報告では、遠隔評価システムを用いた模擬授業評価の実践について説明し、現職教員による模擬授業評価について考察する。

5. 現職教員と協調して行う「情報科」模擬授業の遠隔評価システム

大倉孝昭(大谷女子大学),高橋参吉(大阪府立工業高等専門学校),西野和典(大阪電気通信大学),関本正則(大阪府立生野高等学校)

「情報科」教員養成課程で行われる学生の模擬授業(プレゼンテーション形式)を高校の現職教員に遠隔評価をしてもらうためのシステムを開発し、検証を行った。模擬授業を授業動画 スライドショー 評価 DATA 記入 BOX で構成されたホームページ形式で作成し、サーバーを経由して現職教員に遠隔評価を依頼した。今回は、システム開発と利用者によるシステムの評価について報告する。

6. 理科教育におけるコンピュータ・通信ネットワークの有効活用

ホームページを利用した新しい中学校理科学習のあり方

大久保元規(長野市立櫻ヶ岡中学校),
大下真二郎(信州大学)

IT革命といわれるような今日の高度情報通信社会において、義務教育の現場でも教師及び児童生徒の情報活用能力の育成が必要不可欠なものとなりつつある。このような状況を前提とし、コンピュータや情報通信ネットワークを有効活用することを通して、児童生徒の基礎学力の向上・意欲的な学習への取り組みの具現化を図った。具体的には、中学校理科に関するホームページを作成し、検証していくこととした。

7. 放送技術を切り口とした双方向型 Web 教材の評価

佐々木信之,大墳 聡(群馬高専電子情報科),頼則絢太(コンピュータ教育研究所)

高専のような初期高等教育向けの技術教材として、双方向型の Web 教材を開発し、この改造を行いながら試用し、評価データを得た。この教材の特徴は、放送用信号デジタル処理のシミュレータ

を搭載している点であり、シミュレーションの内容自体もあらかじめ用意されたものの他に、ユーザ自身が Java のソースコードを書くことで自由に追加できる。今回は、ホットニュースを中心とした技術最新動向把握の授業と、デジタル信号処理実験の授業に用い、感想などのフィードバックから、かなりの効果が認められることを得た。

8. 遠隔講義における利用者満足度の評価支援システム

本勢章人,落水浩一郎(北陸先端科学技術大学院大学)

遠隔講義における利用者の満足度の評価を支援するシステムについて報告する。本システムは、様々なアンケートの実施、収集されたデータの統計処理、評価結果の視覚表示などの作業を体系的かつ連続的に支援する。また多くの作業を自動化することにより、データ収集・処理時の誤りを軽減する。

9. 協調学習環境における指導知識抽出支援システムの開発

宮下直子,関 一也,松居辰則,岡本敏雄(電気通信大学大学院)

本研究の目的は、協調学習における教師の介入の構造化を試みることである。そのために、分散型協調学習における教師の指導知識を抽出支援システムの開発を行う。特に、教師がどのような学習状況のときにどのような指導を行うのかをという教師の指導のタイミングやその状況に着目して観察する。そのためのアプローチとして、協調学習を行っている学習者の状況をシステムを介して同定し、事前に設定された選択肢の中から教師の指導法を取得し、それらを構造化する方法を取る。本研究では、協調学習の学習課題を「データベース設計の問題を『ERモデル』というモデリング手法を用いて協調して解決していく」に設定している。本稿では、本研究のアプローチの詳細、開発したシステムの構成、システムが教師の知識を抽出するまでのデータ処理の方法について述べる。

10. 遺伝的アルゴリズムを用いた教授知識の動的な管理機構

英語会話学習支援システムへの実装
梅村和弘,関 一也,松居辰則,岡本敏雄
(電気通信大学大学院)

近年、教育活動や企業活動のグローバル化に伴い、英会話学習への興味・関心が高まってきている。そして、コンピュータ・ネットワークを利用した英会話学習支援システム(教材)の研究・開発が盛んに行われている。しかしながら、これらの英会話学習支援システムでは、発音や文法を重視したものが多く、英会話三重要とされているイディオム(熟語表現)や定型表現などを習得させるものが少ない。本研究では、イディオムや定型表現を重視する英会話学習支援システムを提案し、その実装を行う。本システムの特徴は教授知識の動的な管理機構を備えている点にある。本稿では、開発システムの学習者/グループの構成手法を中心に実装・評価について述べる。

11. 看護師養成課程における短期情報処理教育
情報技術に対する興味と自信の変化
上田千恵(旭川荘厚生専門学校), 井原
零(くらしき作陽大学), 栢木紀哉(鹿児
島県立短期大学), 松本隆行, 若林義啓(く
らしき作陽大学)

現在, 医療分野においても電子化が進み, 医学
や看護学を学ぶ学生においても情報活用教育の必
要性が高まっているといえる。しかしながら, 実
際のカリキュラムでは, 情報活用教育に費やす時
間数は必要最小限に抑えられている場合が多い。
本研究では, 看護学の習得を目指す専門学校生を
対象に, コンピュータの自主的利用を促す教育を
目指した実践を行った。発表では, 教授前後に行
ったアンケート調査に表れた自信度の変化を分析
した結果を報告する。

12. コンテンツエバリュエータを用いたゲームの
観客の感情再現性に関する基礎的研究
上月景正(コナミ株式会社), 浅羽修丈,
石桁正士(大阪電気通信大学), 森石峰一
(帝塚山学院総合情報センター), 宇治典
貞(園田学園女子大学), 長谷川知彦(コ
ナミ株式会社)

我々は, これまで, 映像や音像などに対する評
価者の主観的な印象の度合をリアルタイムでかつ
連続的に記録するために, コンテンツエバリュエ
ータを開発し, その活用研究を行ってきた。本研
究では, アーケードゲームを題材として, ゲームの
プレイヤーが感じている面白さと, そのゲームを
観ている観客の面白さをコンテンツエバリュエ
ータを使って記録し, アーケードゲームに対して
感じる時系列的な面白さの実態を明らかにする
ことを目的として研究計画を立てた。その研究
計画の第1段階を達成したので, その成果を報
告する。

13. プレゼンテーション能力育成のためのDTP
rによるバトル形式演習の実践
飯田慈子, 稲浦綾, 西野和典(大阪電
気通信大学)

筆者らは, 2年に亘り, プレゼンテーション能
力の育成を目的としてバトル形式による演習を
行ってきた。このような形式の演習を実施する
ことで, プレゼンテーションの組み立てを行う
際に, 学生に自ずと複数の視点を持たせ, 訴求
力ある論理の組み立てを考える姿勢を強める
ことができた。

14. プレゼンテーション能力育成のための
段階的教育の実践と考察
稲浦綾, 佐藤妙子, 西野和典, 飯田慈
子(大阪電気通信大学)

大阪電気通信大学総合情報学部メディア情
報文化学科では, プレゼンテーション能力の
育成を目的とした授業「DTPr演習」(2
年次配当の選択科目)を行っている。「DTP
r演習」は, 筆者である西野, 飯田, 稲浦
の3人が担当しており, それぞれの授業
方針と授業内容で演習を行っている。「D
TPr演習」を履修する学生は, 1回目の
授業で行われるオリエンテーションで各
担当者の授業内

容の説明を受け, どの担当者の授業を選
択するか希望することができる。本論は,
稲浦が行った授業の方針と演習で取り上
げた3つのプレゼンテーションの形態「無
声映画型プレゼンテーション」, 「アナ
ウンス型プレゼンテーション」, 「シン
クロ型プレゼンテーション」について報
告するものである。

15. 表計算における問題解決指向演習の
構想
佐野繭美, 橋本はる美, 松永公廣(摂
南大学)

大学における情報教育は, 実務におけ
る諸問題を処理できる能力を育成する
ことに目標を置かざるをえない。しか
しながら, 大学2年次までの情報教
育の枠内でその目標に接近するた
めの教育方法を見通すことは容易で
なく, まだ試行錯誤を繰り返して
構想する段階である。そこでこれ
まで実施してきた専門基礎教育の
うち, 社会で最も利用されることが
多いと思われる表計算とリレーシ
ョナルデータベースを問題解決指
向の演習として再構成するための
いくつかの試行について述べるこ
とにする。

16. 日本文化の調査と問題点
平澤洋一(城西大学短期大学部)

言語調査では, 調査方法そのものに
問題を抱えたデータが, そのまま情
報処理されるケースがよく見られ
る。認知差のない項目については
「あなたの一番好きな花は何ですか」
のような方法で調査され数量分析
されても, とくに問題は生じない。
が, 「一番好きな色は何か」「赤を
表す母国語の単語は何か」の類
では, 認知差の影響を受けて, 等
質のデータが得られなくなる。「人
差指を額の方に向けて円を描く」「
頭を前に深く傾け8の字を描くよ
うに回す」など調査では, 映像が
ないと正確な調査にならない。語
彙調査にせよ文化調査にせよ, 地
域差や県民意識などを考慮した調
査が求められ, カラー見本・画像
・映像などを組み込み認知に十分
配慮した調査画面が必要になって
きた。



研究報告書のお求めは

研究報告書購入ご希望の方は, 日本学会事務
センター事業部・海外部(学協会刊行物頒布業
務)まで, TEL(03-5814-5811), FAX(03-5814-5822)Eメール
(sub@bcasj.or.jp)でお申し込みください。
1部1,300円(送料共)です。残部切れの際は
ご容赦ください。

なお, JSiSE 会員で「研究報告」の年間購
読(購読料は送料込みで年間4,000円)を
ご希望の方は JSiSE 事務局 TEL(06-4961-6507), Eメール
(secretariat@jsise.org)までご連絡くだ
さい(年間6回)。この際, ぜひ購読されま
すようおすすめいたします(教育システム
情報学会研究会委員会担当/伊藤紘二)。

